



EMほっかいどう 54

EMで環境浄化

NPO法人 北海道EM普及協会 札幌市厚別区厚別東5条3丁目24
Tel:011-898-9898 Fax:011-898-9798 <http://em-hokkaido.org>



①先進地視察、三笠市の生ごみ堆肥化工場



④札幌市職員を招いての生ごみ処理勉強会



②しのつ湖にEMダンゴを投入する東出新篠津村村長



⑤ '09 自然農法研修会 (アスパラ) 長沼町で開催



③今年も厚別区民祭りに参加、隣はひまわり会



⑥アリオ店で、小分け業者の有機JAS調査

目 次

1. 目次	1
2. ご挨拶	後藤 護 理事長 2
3. 朱鞠内からの手紙 (3)	会員 幌加内町 宮原 光恵 3
4. 新・夢に生きる	琉球大学名誉教授 (当協会名誉会長) 比嘉照夫 4~5
5. EMと私 (その8)	旭川 EcoM クラブ西神楽 顧問・会員 高野 雅樹 6~7
6. 先進地視察の報告 (三笠市) I	専務理事 細川 義治 8
7. 先進地視察の報告 (三笠市) II	投稿 9
8. 私、EM エコ美人です	環境担当理事 池田恵利子 10
9. 手作り野菜の収穫祭 (北広島市)	理事 阿部貞夫 11
10. EM 栽培野菜とボカシの販売	会員 小池康子 12
11. EM関連情報 1~2	専務理事 細川 義治 13~14
12. EM関連情報 3・北海道特産物活用レシピ (1)	インターネットより 15
13. EM-1 の素晴らしさを再確認・主人の血糖値下がる	会員 小池康子 16
14. 喫煙で年間 600 万人死亡	理事 萩原俊昭 17
15. 視察報告・愛媛のみかんの会 (三皿園) 1	流通担当理事 浦崎則夫 18
16. 視察報告・愛媛のみかんの会 (三皿園) 1	理事・事務局長 大西秀男 19
17. 大橋農園、お茶愛飲の皆様へ (安全、安心なお茶)	20
18. 2009年度 EM ボカシネットワーク北海道支部総会を終えて	代表 宮田英次 21
19. 情報交換会の予定と内容	担当理事 阿部貞夫 22

別紙-1 '09年農産物の注文書

「今こそ生活防衛」

リーマンショックに始まる世界同時不況、先日の民主政権交代、私達の生活は日を増す毎に厳しくなる一方です。とりわけ、年金生活受給世帯にとっては今の生活費をさらに切り詰めなくてはならない状況に追いやられるでしょう。



理事長 後藤 護

何故なら、民主党のマニフェストでは、高速道路無料、ガソリン税(暫定税率廃止)なし、年金最低額7万円、農家所得最低保証、後期高齢者医療負担制度解消、子供手当支給、などなど、盛り沢山、この財源どこから捻出するのか、「ムダをなくする」だけでは充当できないのは歴然としています。

結局、最終的には国債で一時しのぎ、国民への税負担しかなくなるのです。借金は800兆円になっていることからして、これ以上の増額は次世代への付回しは出来ません。となると、答えは一つ4年後に必ず私たちに付けが廻ってくることになります。今の私達の収入には限りありますから、支出を抑えるところに一番の生活防衛があるのです。今だって支出を抑えてやっていると言う方がもちろんおられるでしょう。しかし、これからは違う意味での「将来の支出抑制」を申し上げたいのです。

「生活防衛」の最たるものは、私達の「健康」です。つまり病気になると当然出費が伴います。家族皆に負担を強いることにもなります。「老老介護」ともなれば尚更悲惨です。ですから健康であることが一番の生活防衛に他なりません。今健康でも将来も健康であると断言できますか。

「健康」と言う言葉には、心と体の健康と言う意味があります。体には、「食と運動」があり、[食]の基本はバランスの採れた食にあり、さらに他の命、生命を頂戴することですから、なるべく新鮮なものが、一番体に良いのです。

だからこそ無農薬で天然なものが体内の微生物にとって吸収し易くなり、しいては体の健康によいのです。至るところに無農薬、有機の名のもとに野菜が売られていますが虫に食われた跡がありません。とても信用できません。そうなれば一番信用できるのは、自家栽培しかありません。さらに仲間が居れば、分け合ったり、譲り合ったり、協力したり、助けあい「毎日が生き生き」とやっていけるというものです。これぞ[心の健康]の一つと言うものです。

[運動]のことですが、これには「早く歩くこと」が大事です。人間一番先に足腰から老けてきます。移動手段が無くなると人生真っ暗闇になります。自分の体力に合わせて、毎日「継続」して30分以上あるくことです。雨の日、冬をどうするかは、沢山のアイデアがあります。

「心」の健康については、次回にいたします。

以上

アラスカで学んだこと その2

夫は1年目の冬、ユーコン川のほとりのネイティブの村で、彼らの昔ながらの暮らしを一人で実践していました。訓練していない犬達を集めネイティブの地元民にノウハウを聞きながら犬ぞりの訓練をし、大型の野生動物の狩猟や解体作業を共に行い、毛皮の処理や加工技術を学びました。それらのひとつひとつは、北国で暮らす原住民の知恵がたくさん詰まっていた。

当時、夫は狩猟採集の生活を目指していると言っていましたが、もっとわかりやすく言うと、人間として生きるために必要なことを、自らの手で、できるだけ人に頼らず、自分たちの持っているあらゆる能力を使って生きる、という言葉に集約されていました。そしてその生活技術を学ぶために、あえて森で暮らすアサバスカンインディアンの村を選んだのでした。

アラスカのネイティブには、イヌイト(エスキモー)とインディアンの大きく2種類の原住民がいます。イヌイトは、海辺で鯨やアザラシを獲って暮らす人々で、インディアンは森の中で内陸の動物を狩猟して暮らす原住民をいいます。そして、外部の人々に寛容なイヌイトに対して、森で暮らすインディアンは非常に閉鎖的で、なかなかその中に入り込んで彼らの生活を知り、共に何かをするのは難しいとされています。夫はその中に一人で入り、彼らに溶け込んで、ジャパニーズネイティブとして認められつつありました。

2年目と3年目の冬、私はその村に夫と共に入りました。英語が片言の私には彼らとのコミュニケーションは簡単ではありませんでしたが、それでも地元のおばあさんに手芸や毛皮の裁縫のノウハウを学んだり、料理を学んだりし、ユーコン川に魚の網を仕掛けに行き、犬達と私たちの食料を確保したり、原野にドライウッドを切りに行き薪を確保したり、と、物を買うのではなく、自分の周りに有るものを生かす、工夫するという原住民の暮らしを、ひとつひとつ学んでいたように思います。

私たちの暮らした村は北極圏ではありませんでしたが、それでも冬は太陽の出ている時間は短く、気温も低く、厳しい気候でした。私達が経験した最低気温は、夫で-5.5℃、私は-4.7℃、そしてアラスカでは最低気温とはいっても、日が昇るとすぐに気温が上がる日本とは違い、一日中上がらないのです。太陽が出ても、ただその時間明るいというだけで気温を上げるだけの力は無くすぐにまた沈んでしまいます。ですから一日中-4.7℃なわけです。そうなるともう外に出歩くのは大変危険で、

命に関わります。村も、山も、周り全てがカッキーンと凍りついた感じです。そう、空気さえもそこに含まれる水蒸気が凍りつき、アイスフォグという現象が起こることもあります。

この村に行くには、冬の間は小型の郵便飛行機を利用するくらいしか手段がありません。そこまでの道は、無いのです。隣村までは約70km、それも冬はスノーモービルか犬ぞりでの移動です。ですから、村人以外の人との交流は極めて稀で、よそ者は大変注目の的です。私達がよそ者でありながら比較的彼らに受け入れられた理由は、一つは同じモンゴロイドで肌の色が同じだったこと、そして、貧乏生活が元々板について、彼らと同じ目線の生活を望み、実践していたことが、彼らにとっても違和感無く受け入れられたからではないかと思えます。

毎日高校生が私たちの家にやってきては事細かにチェックしていき、一緒に狩猟や解体作業をすることで、差別意識や偏見を取り除き、こいつらは俺達と一緒にだ、と思ってくれたことが、なによりありがたかったと感じます。

彼らの生活技術、食文化、白人社会との根深い問題など、私達は大変多くをこの村で学びました。その中でも、私の心に最も強烈に残ったことのひとつは、毎日が命がけで生きている彼らにとって、お年寄り、生き残っているだけで尊敬に値する、という事実でした。



大きな角が特徴のカリブー（トナカイの一種）

新・夢に生きる

国宝・松本城の堀の水質改善

環境基準でAAランクに、ヘドロも最大74cm軽減

琉球大学名誉教授・名桜大学教授(当協会名誉会長) 比嘉 照夫



戦国時代の天守が残る信州の名城、国宝・松本城で、EM技術を活用した堀の水質浄化事業が実施されている。平成21年4月の水質検査(検査機関:(社)長野県薬剤師会検査センター)の結果、2年前のBOD(生物化学的酸素要求量)4.5が1.0に激減。水質の環境基準(環境省)でAAランクとなり、飲み水にすることも可能なほど水質が改善された。また、堀内8か所で行っている汚泥調査では、2年前に最大132cmもあったものが、同じく4月の調査で最小5cmになった。透視度も1か所で75だが、他は100と全体的に水質が良くなっていることが証明された。

松本城は年間約70万人の観光客が訪れる名所であり、城周辺の松本城公園は、市民も足を運ぶ憩いの場となっている。また、春になると約320本桜が咲き乱れ、花見の名所としても人気がある。そんな松本城だが、数年前に堀のニオイが気になると市民から指摘を受けた。松本城管理事務所では、業者に依頼し、ヘドロを吸い上げたり処理したり、化学処理で水質浄化に取り組んだが、根本的な解決にはならなかった。

市がEM活用事業を予算化

平成17年から地元ボランティアの協力を受け、定期的にEM活性液やEM団子を投入し始め、18年には市民らとともに「お堀の浄化作戦」がスタート。その様子は、テレビや新聞などでも取り上げられ、内外から注目を集めた。これを機に、19年から市では「堀浄化対策事業」としてEM活用の事業を予算化した。

早速、松本城管理事務所が、以前からEMに関してアドバイスをもらっていた(有)イーエムテックフクダからEM培養装置を購入し、技術指導を受けた。実際の浄化事業を、35年前から城の池・樹木管理等を請け負っている(有)中部警備・救助に委託し、本格的な浄化活動が始まることになった。



松本城の五重天守は、姫路城とともに2基しか現存しておらず貴重なもの



熱意を持って浄化事業を推進する(有)中部警備・救助の古畑会長(左)と活性装置メンテナンス等で現地を訪れる(有)イーエムテックフクダの福田社長



昨年8月には比嘉照夫名桜大学教授も現地視察。「水面がキラキラしている」と評価した。写真奥は宮島前松本城管理事務所所長

同年4月から、4日に1回(500リットル)EM活性液を散布。約3万5000平方メートルの堀に月約5700リットル、今までに約138トンが投入されたことになる。EM活性液は、EM培養装置で1次培養後、地元農機具メーカーがつくった特製タンクで2次培養されている。1次2次とも48時間、じっくり温度をかけて培養。2次培養でもpH3という良質なEM活性液を製造している。

EM活性液散布の実務作業にあたる中部警備・救助の古畑会長は、「散布前は、特に夏場になると汚泥が水面に浮き上がって、異臭を放っていた。作業のため堀の水の中に入ることも多々あるが、以前は作業後すぐにシャワーをあびないと体中かゆくなっていたが、今はその症状は一切なくなった」と水質改善の状況を身をもって感じている。また、毎朝20人くらいで堀周辺を散歩する市民からは、EM散布開始1年目から堀のニオイがなくなったと言われ、散歩するのが気持ちよくなったと喜ばれている。

様々な波及効果が生まれる

松本城管理事務所の田堂所長補佐は、「水質改善の要因は、EM投入と一昨年に堀に流入させている地下水の水源を1か所増やし4か所にし、大きな水の流れができた相乗効果だと思っている」と話している。夏場には、観光客や市民から堀のニオイが気になる

といった指摘を受けてきたが、最近はそうした苦情も少なくなったと言う。さらに「堀の水がキレイになった」という電子メールも送られてくるとのこと。

また、堀には、ハクチョウやコイ、カメ、カモなど多くの生物が生息しているが、古畑会長は、「散布前は、約8割のコイが水ダニに寄生されてウロコが持ち上がって赤くなっていたが、その状態が改善された」と驚いている。さらに、浄化事業を始めてから、近隣市町村や業者から中部警備・救助へEMに関する問い合わせがあり、松本城のトイレ掃除や市内のあがたの森公園の池(3000平方メートル)でEMが活用されるようになった。

現在、松本城では、すでに世界遺産となっている姫路城(兵庫県)と犬山城(愛知県)、彦根城(滋賀県)の国宝3城とともに世界遺産の拡大登録をめざしている。また、約1万平方メートルの外堀の復元事業も計画しており、EMを活用した堀の浄化事業とともに、これらの動きから目が離せない



堀の底まですっきり見え、その中を元気に泳ぐコイたち(写真提供・旬イーエムテックフクダ)

EMと私(その⑧) ※EMによる健康生活づくり(No.2)

旭川 EcoM クラブ西神楽 顧問 高野 雅 樹

今年の夏は、ひどい天候でした。特に、雨の多いのには参りました。“高野農園”は、厚い粘土の地盤の上に、かろうじて作物が根を張れるだけの土がのっかっているだけなので、水の引きが悪く、今年のように雨の日が続くと、少し強い雨が降るだけで畑が水浸しになってしまいます。今年は、10回くらい「畑沼」が出現しました。高畝にしてあるいくつかの作物の他は、ほとんど全部、水につかってしまいました。枯れたり腐ったりしないかと、ハラハラのし通しでした。7月に、ビニルハウス内に水やりを一度もしなくて済んだほどです。普通では考えられません。しかし、ニンジンが、水につかった下の方の葉が枯れたせいで、余り大きくなっていないくらいで、他の作物は、それなりにちゃんと育っています。これもすべて、「EM」のおかげです。今年も、安全でおいしい野菜をいつでも収穫できる幸せを味わっています。



水没した畑『畑沼』

さて、今回も、前回に引き続き健康に役立つ“EM散布”について取り上げてみたいと思います。“EM散布のバリエーション”について書こうと思ったのですが、一つ一つ書くと細かすぎてきりがないので、私が、“散布の基本”と考えていることを紹介します。

まず、EM希釈液散布の根拠になっている私の考えは、次の二つです。

- ①EM-w(EM-1)は、微生物たちの働きで、放っておくと腐敗してしまう有機物系の物や、健康にとってよくない物質の多くを分解したり無害化したりできる力を持っている。
- ②EMのもつ「抗酸化力」によって、EMをふきかけた物や場所が「抗酸化」の環境になり、物の酸化や劣化をおさえてくれたり、病原菌の繁殖を妨げたり、身体を活性酸素の悪影響から守ってくれたりできる。

この二つの力を使いたいと思ったときは、迷わず“シュッシュ”とふきかけるようにしています。(私は、花や植物には1000倍希釈液、その他はすべて100倍希釈液と決めています。)だから、どんな時でも、どんな場所でも、どんな物にでも、可能でありさえすれば使えるのです。柔軟な感覚をもって、イメージを膨らませると、色々なバリエーションが広がります。そして、その効果を実感できるのです。

例-1

◎身体に触れる物すべてを出来るだけ「抗酸化」の状態にしたい。(「抗酸化」の状態の中に身を置く)と思ったとき、次のような考えが出てきます。

- ・下着や衣類に噴霧する。(着る前の日にシュッシュして乾かしておくとうい。))
- ・布団に噴霧する。(朝起きたら、かけ布団を剥いで身体に触れるすべての部分にシュッシュ)
- ・椅子、座布団などにも噴霧する。(就寝前にたつぷりとシュッシュ)
- ・床・壁・天井にもしっかり噴霧する。(部屋全体を「抗酸化」の環境にする。)
- ・加湿器の中にEMを加える。(部屋にも、人にも good!)

【応用】

○たくさん足を使う運動（登山・ハイキング・サイクリング等）が予定されている日の前日、その日にはく予定の靴下に、たっぷりEM希釈液をしみこませ、乾かして、それをはいていくと、足の疲れ方や疲労の回復のしかたがまるで違う！！

〈 お試しあれ！ 〉

例-2

◎口に入れる物を少しでも安全で美味しくしたい。と思ったとき。

- ・野菜や果物は、シュッシュしておいてから調理する。（EMを少し加えた水に15分程浸しておくとなおよい。）
- ・ミカン等、果物の皮の上から噴霧すると、実の味がグンとよくなります。（半分にして片方だけに噴霧して比べてみるとよいですよ！ぜひ、お試しあれ！）
〈バナナの皮の上からシュッシュしておく、2倍くらい長持ちします！〉
- ・包み紙、箱、等の外側からシュッシュすると、中の物の味がまろやかになります。（不思議ですが、はっきり違いが出ます！）

※「こうしたらどうかな？」と考えたら、とにかく試してみるとよいです。そして、よい使い方をみつけたら、どんどん他の人たちに教えてあげてください！

幸せは、広げましょう！

「EM-xGOLD」の力は素晴らしいです。飲んで病気の治療に効果をあげていることについてはよくご存じだと思いますが、もっと日常的に、すぐ身の回りで役に立つ使い方がたくさんあります。私は、EM-xGOLDを2倍に希釈して（EM-xGOLDは高価なので・・・）小さなスプレーヤーに入れて常に持ち歩いています。今では、我が家の必需品になっています。

EM-wは、生の菌で、しかもけっこう強い酸性です。食べ物に直接かけると味が悪くなったり、生菌であることに抵抗感を持つ人もいます。でも、EM-xGOLDは、ほとんど何も添加されていない、強い抗酸化力を持つ“清涼飲料水”です。これならば、口に入る食べ物に直接かけても、傷口につけたり目の中に入れても何の問題もありません。しかも、信じられないくらい素晴らしい力を持っているのです。

この“小さなスプレーヤー”の感動的な活躍ぶりについては、改めてご紹介したいと思いますが、とりあえず一つ、お試しください。

○打ち身、捻挫、肩こり、筋肉痛などの患部にEM-xGOLDを噴霧し、患部をなでるようにすり込むと、（症状が回復するまで、思い立ったときに）驚くほど早く回復します。（私は、打撲でひどい内出血をしたときも、ほぼ1日で痛みも共に消えました。）



EM-xGOLDと100均で購入したスプレーヤー

先進地視察ツアー

専務理事 細川義治

8月30日9時普及協会を出発したバスは国道12号線を走行して三笠市の堆肥化施設へ。人口1万2千人の町から発生する生ゴミ全量をEMで堆肥化。多少の臭いの発生があるものの、肥料効果の高い資材として農家で利用されており、他自治体が同様の堆肥化に取り組んで欲しいシステムです。小さな自治体だからうまくいっているという理屈は行政側の怠慢でしょう。有機物の有効活用を考えると、大きな焼却施設は無駄と感ずるばかりで、あいにくの選挙と重なり施設側からの説明はありませんでしたが、おとしの見学時を思い出しながら簡単な説明をさせてもらいました。(表紙写真参照)

その後、桂沢湖に近い博物館で恐竜やアンモナイトに見入り、化石オタクが高じて学芸員になったというガイドさんから熱い説明を受けて皆さん興味津々の様子でした。思いがけずに室内でまとまって昼食を摂ることも出来ました。



恐竜の骨格（レプリカ）

次にEM栽培10年の北海道ファームへ。

動物よけの電気柵の中で、かぼちゃの栽培法の説明を受けました。

一年ごとにライ麦とクローバーの緑肥畑とかぼちゃ畑を交代させることによって重粘土地の改良を行っており、年々土の状態が改善されているとのことでした。



説明を受ける視察団

その後は、かなり入った一袋100円のキタアカリと、300円の小玉スイカなどを完売いや完買し、それでも足りずに、最後に寄った三笠の道の駅で沢山の野菜を買い込んでいました。近場であったことも幸いして、移動時間も少なくゆったりと楽しめた一日でした。



自然農法野菜どっさり買いました

自分の故郷にもかかわらず、堆肥化施設へは迷ってしまい大変失礼致しました。方向音痴に付き、ご容赦。

先進地視察参加者の感想

- 1、先進地視察に参加してすごく良かった。
三笠市立博物館のアンモナイトの化石など見学できてとても良かった。
是非、来年も参加したいです。 Aさん
- 2、“EM使用生ごみ堆肥化施設”があるのは知らなかったです。
どうして良い事を行っているのに恵庭では出来ないのだろう？
また、来年も是非、参加したいです。 Bさん
- 3、 休日とはいえ“EM使用生ごみ堆肥化施設”の中に入れなかったのが
残念でした。皆様もそう思っていたのではないのでしょうか？
お野菜なども買え、「道の駅」等の休憩など、ゆつくりしたスケジュールでした。
来年も行きたいです。 Yさん
- 4、 チョウチョウやトンボ、すず虫がいっぱい飛び交う中を歩き、
カボチャ畑へ着きました。EM栽培で3本立ての方法で作っているとのこと。
説明が終わり、スイカの試食がありました。一口食べて驚きです。
甘〜い！ おいしい！！小ぶりののに見た目以上、それいじょうにおいしい！！
価格も気に入りました。安い、安い、ジャガイモも有りました。
とても安く、安心して食べられる作物を作って下さった、
北海道ファームの皆様感謝でいっぱいでした。
又、企画して下さいましたEM普及協会の皆様ありがとうございました。
来年も楽しみにしています。 M・Tさん
- 5、 話には聞いていましたが、三笠から発掘されたアンモナイトの中にイカに似ているものが
入っているのを見てとても驚き、素晴らしく感動しました。
説明した方が子供の頃から化石に興味を持ち、本州から北海道に就職して、
生きがいを持っている姿に感動しました。
“EM使用生ごみ堆肥化施設”は中に入れなかったのは残念だけど、このような施設
が、増えていけば良いなと思いました。
北海道ファームでは種を蒔いて肥料(緑肥)にする方法での野菜作りに驚きました。お
いしい野菜を購入できて良かったです。 S・Hさん

<私、EMエコ美人です>

環境担当理事 池田恵利子

夏が行ってしまいましたね。 お変わりありませんか？ さあー！ 秋です！
寒くならないうちに、家の外回りの掃除と、いきましようか。

(用意するもの)

- ・お湯で薄めた EM 石けん液
- ・雑巾かスポンジ
- ・きれいに洗った古くなった下着

○ 網戸をきれいに

まず、網戸を外し、石けん液をしばった雑巾かスポンジで、やさしく内側、外側をふく
勿論、枠もきれいにふく。その後、古くなった下着からぶで乾拭きをします。

(きれいになった網戸は物置で来シーズンまで、お休みなさい)

○ 次は外側のガラス拭き (元気があったら内側も)

疲れてしまったら内側は後日に拭きましょう。

○ 次は玄関・裏口のドアをふきます。・・・**おまけ** 最後に玄関、裏口のくつをぬぐ所
も、網戸の時と同じように、薄い EM 石けん液でしばった雑巾かスポンジで拭き、古くな
った下着でおしげなく乾ぶきをして、下着は、長い間、ご苦労さまでした で ゴミに出
します。 すっきり、きれいになって秋をお迎えください。

{ここで、エコ美人をお使いいただいております、会員さんの声をお聞かせします}

<札幌中央区の M さん>・・・液体にして台所において、食器洗いに：よくおちます

<札幌白石区の k >・・・お風呂用石けんとしてつかっています。かゆかった乾燥肌の足が
・・・肌が良くなり、かゆくなくなりました。

<江別の I さん>・・・{足袋の裏、石けんをつけたブラシで下洗いをして洗濯機へ}

{白のスポーツソックス、石けんでもみ洗いをして洗濯機へ}

まっ白！よごれがよくとれています

{薄めの石けん液で床をふいています、汚れもとれ、つやピカです}

今では、廃油、沢山の人達によって石けんに生まれ変わっています。でも、EM石けんエコ美人が他の石けんと違うところは、EMが入っているというところです。それで、手荒れが全然ないばかりか、皮膚の弱い人にも安心して使っていただき、カサカサ肌に潤いさえ与えているのです。長い間、EM-1を入れていたのですが、ここ1年程、EMW(柑橘系のさわやかな香り)に変え、油くささもずーと少なくなり、色も色白になりました。

家庭で使い終わった、厄介者の油を集めています。協会にお持ち頂いた1Lにつき、EM石けんエコ美人1ケと交換させて頂いています(500ML、2本)、石けん10ケまとめて、お買い上げいただきますと1ケサービスです。

沢山のお買い上げをお待ちしております。

会員だけのメリット 安全、安心、な石けん、

=エコ美人より=

手作り野菜の収穫祭

「NPO法人北広島自給菜園の会」の存在感を示す

普及協会理事 阿部 貞夫

クリーンの会としてEMのボカシ、活性液を作るための施設設備の陳情に市長と面会したのは昨年8月上旬であった。僅か6名の会員に多額の費用を要する設備にOKする筈もなく、その時、市長は私どもに「NPO法人を立ち上げては」と助言した。それを受け今年3月20日、会員45名の参加を得て設立総会を開催し、「NPO法人北広島EM自給菜園の会」を発足させた。全くの無一文からの出発。発起人3名が当面の資金を出し合い発足。会員は予想以上に増加し、9月6日現在で93名の会員。倍増したのは嬉しい限りだ。来年4月の第1回総会までに目標の100名に達することも夢では無くなった。

先日9月5、6日の両日北広島団地活性化委員会主催による「手作り野菜の収穫祭」が開催された。団地住民が庭で、あるいは借用地で野菜づくりをしている野菜を販売しようとの試みだ。会場は北広島JR駅構内にあるエルフィンパーク交流広場だ。EM自給菜園の会では、市民に会の存在を知って貰う最大のチャンスと捕らえ全面的に協力をした。EM普及協会専務理事の細川氏の協力を得て500部もの3種類のリーフレットの提供や、パネルをお借りしPRの効果は抜群であった。只土日とあって市民の出足は鈍く、特に6日の日曜日は市民挙げての催事「元気出すフェスティバル」と重なり客足はパツタリ。5日には萩原所長夫妻の励まし、6日には細川専務理事がEMのPRに協力して下さるなど感謝であった。

野菜販売は5日には250人の来客があり、市役所の担当課長は売り切れを心配していたが、6日の催事があったために来客は僅かの60人程度で、結局は馬鈴薯などは大量に残ってしまった。しかしこの催事を通じて役員意識の高まりと、結束が出来た事は何よりの収穫であったし、NPO法人として今後の成長に大きな期待が持てたのは成果であった。受け入れも販売も初めてなことであり、野菜の販売は大きな赤字を抱えてしまったが、今年は種まきの年。団地活性化委員会主導で市役所都市計画課が推進した今回の「手作り野菜の収穫祭」の催事。EM自給菜園の会にとっても、今後芽を出し花が咲き、大きな実になるような予感がある。EMの素晴らしさを共有し、循環型社会を目指し健康で快適な生涯を全うできる一助になれるよう、EM自給菜園の会が微力を尽くしたいと思うのであった。

2009・9・11

EM 栽培野菜とボカシの販売および

EM PR 活動

東川下 EM 愛好会 会長 小池康子

8月30日 参加会員11名は、EM栽培農家で北村の山口・斉藤両農場の協力を得たEM栽培野菜15種類と当会作成のボカシを「東川下地区ふるさと祭り」会場に出店・販売し、北海道EM普及協会提供の幟、帽子、EM関係資料を展示し

4年連続の活動をしました。

EM栽培野菜のおいしさ・良さを認識している心待ちの方や、親子連れで立ち寄りの方が多く、数種の野菜を手にとり、珍しい野菜の食味と料理方法や一度に食べきれない食材の保存方法に質問が集中していました。

また、自宅栽培野菜や花卉の自慢、天候不順による作柄や野菜の価格高騰への心配等多様な話題が交わされていました。

盛況の中でも、予想外だったのはボカシやEMに質問があり専任の説明員が必要なほどでEM関係資料の持ち帰りやボカシの追加注文に対処しました。

各野菜の完売が続出し予定時間より早く閉店となってしまう不満の声も聞こえるほどでした。

さらには、越冬野菜の購入希望や入会希望も寄せられました。

反省会では、店頭での話題の広がりや予想以上にEM野菜が知られていることに会員一同認識を新たにしていました。

来年の販売活動をさらに充実させるための方策を確認し、事前準備から閉店までの長かったけれど充実した活動を終了しました。



写真① 4年連続の参加です



写真② EM商品も販売されました

EM関連情報

専務理事 細川義治

札幌市

7月12日、厚別に新設されたリユースプラザで生ゴミ処理の勉強会が開催されました。コンポスター、段ボール、EM密閉容器式の3方法を3人の講師で行ったため、時間が短く、中途半端な説明になりました。その続きとして9月6日には、講師は私1人でこれからの処理方法についての勉強会を行いました。気になったのは、やはり、密閉容器で長いこと置き過ぎて、悪臭を出してしまった人がいることでした。カラー刷りのパンフには「8分目になったら1~2週間置く」と書いてあることが原因のようです。野菜くずの水切りを十分にしていれば、長いこと置いても悪臭にはなりません、水分が多く温度の高い夏の時期は、やはり、早めに畑に戻さなければなりません。臭いで生ゴミ堆肥化を断念した人にはこのことを伝えてあげてください。

岩見沢市

7月11日、ゴミの祭典に参加。午前中の忙しい時間を浅野さんにまかせきりで、いつもお世話になりっぱなし。江別の環境広場と同様に日本ハムのチケットが抽選によりあたるということで、子供たちの来場多し。未来を担う子供たちが少しでも環境に関心を持ってもらえればと思う。

8月22, 23日、栗沢で農業祭に参加。昨年よりも来場者が少なく、堆肥化の相談もわずか。熱心に聴いてくるのは札幌市民だったりして、なんとなく肩透かしをくったよう。

江別市

4回にわたり酪農学園で家庭菜園講座を受講。学問を専門としてきた講師よりも、農業高校で教鞭をとってきた講師のほうがより、具体的なことまで知識を持っていて納得できた。「農学栄えて農業減ぶ」講師として頭に置いておかなければならない言葉である。

9月26日には江別市主催のエコフェア2009が開催されるが、今年もEMの展示依頼あり。10年以上の江別環境広場での出展が認知されているのだと思うが、密閉容器への助成制度の復活に結びつかないのが無念。まあ、それでも頑張るしかありません。

北広島市

7月1日、児童養護施設の天使の園の年少児童さんを招待して、EM栽培のいちご刈り実施。20人ほどのこどもたちは皆元気にいちごを頬張っていました。「この子は園にいるときはこんなに声を出さないのに」と言われている職員の人たちや引率のシスターたちも大変喜んで帰られました。また来年のお楽しみ。いや、その前にさつまいも掘りが待っていました。

9月4日、西の里中学校の生徒3人と先生が職場訪問で来所。環境クラブを立ち上げているとのことで、これから、何かをお手伝いできれば、そして、自分たちでも環境改善が

出来ることを体験してもらえよう最大限の協力をするつもり。現在はトイレ掃除にEM-1を使用していて、夏場の臭いアンモニア臭がほとんど無くなったとのこと。EMが多方面に活用されていることを説明すると、先生のほうが強く関心を持ったようであった。これからの更なる広がりへの期待感あり。

9月5、6日、阿部理事が中心となって立ち上げた「北広島EM自給菜園の会」が、地域の活性化の活動の一環として、JR北広島駅構内のエルフィン広場で自作のEM農産物の販売をおこなった。前日に8名で数百もの袋詰めや活性液のボトル作りなどを一日がかりで行い、当日は朝早くから構内2階へ搬入という重労働。皆さんご老体に鞭打って、EMの普及に一層懸命取り組んでおられる姿を見て、北海道EM普及協会としても、より一層多くの人への働きかけをしなければならぬと強く感じた。見習う点多し。



北広島市長も駆けつけた

千歳市

9月5日、放牧豚で名を馳せているガイア農場祭が行われた。海外からの研修生57人を含む例年の2倍ほどの200人近くが集まり、大盛況であった。情報交換会の日に普及協会に野菜を持ってきてくれている荒さんご夫婦も野菜の販売をしておられ、参加者は様々な料理に舌鼓を打っていた。ベンチャーズを皮切りに昔懐かしい音楽の生演奏もあり多いに盛り上がっていました。



ガイア農場で行われたパーティ

どなたでも参加可能ですので、来年は是非ご参加を。ちなみに今年は竹下理事のご家族も参加されていました。

ボカシネットワーク総会及び生ゴミ堆肥化講演会

細川義治

7月18日当普及協会においてボカシネットワークの総会が開かれた。残念ながら比嘉節子さんが来道出来ず少々寂しい感もある中、1年に一度の顔合わせということもあり、全道から10施設のいつもの懐かしい顔が並びました。EM研究機構の瀬戸氏いわく「北海道ほど活動の活発なところはありません。全国で一番進んでいる」。これも、組織としての資金集めがうまく機能しているのと、単独でもボカシの販売量が増えていたり、北星園のように独自のあいがも特産品作りが成功しているからにほかなりません。しかしながら、10年後20年後を見据えると、より広範な活動が必要になってくることは必至で、今のところは技術の習得と普及に努めることに精を出さなければとの話が出ました。夕方には近くの会場で懇親会。多いに盛り上がり、あっという間の2時間でした。

19日には、雨が降る悪天候の中、厚別区民センターには200人ほどが集まり、札幌市のごみ減量推進課の課長さんはじめ、他3人の発表に耳を傾けました。市のゴミ事情とこれからについて、「わーくひまわり」さんの活動報告、EM使用による家庭菜園体験、最

後にEM生ゴミ処理の方法について、と短い時間ながら充実した内容に市民の方もじっくりと聞いておられました。時間の関係で質問を途中で打ち切るほどでしたが、市の課長さんも「ゴミ処理の話にこれだけ集めるとは」と驚いていました。主催の「わーくひまわり」さんお疲れ様でした。

その他

9月7日、NHKのクローズアップ現代で「スーパー雑草」について報道あり。宮城県では水田にオモダカの大発生、福岡県では麦畑に数種類の除草剤にも耐性を持ったものが発生。米国では遺伝子組み換えしたとうもろこしや大豆の畑で、農薬耐性を持った雑草が生まれてきているという。病院での殺菌剤耐性の強毒性への変異菌の発生と理屈は一緒で、微生物や植物はいずれ耐性を得て生き延び、より人間にとっては厄介なものになることが明白になった。一時期減少傾向にあったとうもろこし、大豆の遺伝子組み換え生産量は近年7, 8割にも達しているという。日本は何らかの対策を取らなければ、味噌、醤油などの豆文化が減びてしまう恐れが出てきているということである。生産者を支える消費者行動が必要とされる時代なのかもしれない。

北海道特産物活用レシピ集(1)より

<p>さっと手早く、もう1品に！！ じゃがいものきんぴら</p>	<p>作り方</p> <ol style="list-style-type: none"> (1).じゃがいもは千切りにして、さっと水洗いする。 (2).フライパンに油を熱し、いもを炒める。 (3).(2)に150ml水を少々入れ、いもに火が通ったら、砂糖、しょうゆ、みりんを入れ味付けする。 (4)黒ごまを散らし、全体を混ぜ、できあがり。
	<p>調理のポイント</p> <p>唐辛子やごま油を入れてもおいしい。</p>
<p>材料(4人分) 調理時間 18分</p> <p>じゃがいも 中3個 (皮をむいて450g) 黒ごま 少々 砂糖 大さじ1 みりん 大さじ1 しょうゆ 大さじ2 サラダ油 適量</p>	

EM - 1 の素晴らしさを再確認！

会員 小池康子

EM-1入りの加湿器を使用しない季節で、すぐ風邪を引きました(6月)です...
残念！！ しかし7月よりお風呂に {EM-1 60cc+米とぎ汁 EM発酵液
200cc} を入れ始め、肌ツルツル、風邪を予防、心ルンルン実行中！！

そして このまま秋へ・・・

又、EM-1入り加湿器とお風呂の2重チェックでインフルエンザも寄せ付かせぬ
様がんばろうと思います。

皆さんも いかが！

「主人の血糖値下がる！ 現在進行中」

主人 大喜び！！ 私 満足！！

こんな蒸料理 一品 多く取るだけなのに！ それは・・・

タジン鍋を使いレンジ10分で良し

毎日夕食に 我が家では（キャベツ、モヤシ、人参、キノコ類、
ピーマン）を必ず入れる。

現在、3ヶ月がすぎ4ヶ月目、

たっぷりの野菜を無理なく食べ 血糖値を下げる。

油も使わず 数多くの野菜を毎日取り満腹 お肉の脂肪も気にせず。

注タジン鍋とはモロッコの民族料理に使う伝統の無水鍋のことです。

付けだれは ポン酢をいかが

喫煙で年間600万人死亡

米がん学会が報告書

理事 萩原 俊昭

喫煙が原因と考えられるがんや心臓病などによって死亡する人は、世界で年間約600万人に達し、その数はさらに増える見通しであるとの報告書を米がん学会などが25日まとめた。

報告書によると、喫煙はがんや心臓病、呼吸器疾患などさまざまな病気の原因となり、喫煙する人はしない人に比べて平均で15年早く死亡する。たばこを吸わない人も受動喫煙によって、毎年20万人が死亡しているとした。

米国や日本など先進国の喫煙率は減少しているが、中国を中心に発展途上国の喫煙人口は年々増加。試算では、2010年に喫煙が原因で死亡する人は、年間死者数の約10分の1に当たる約600万人となり、医療費や若い労働者が喫煙で死ぬことなどに伴う経済損失は約5千億ドル（約47兆円）に達す。

米国の調査だが、「ストレスを頻繁に感じる」という人は非喫煙者より喫煙者に多い。ストレスを抱えた人が喫煙するのか。喫煙でストレス解消というがそんな効果があるのか。禁煙が広がったいま、喫煙者にはたばこを吸えない状況がストレスにならないか。きょうのテーマは「喫煙とストレス」とした。

英紙デーリー・テレグラフなどが、禁煙するため、1カ月の無人島暮らしをするという英国人男性（56）の話を紹介していた。喫煙歴は43年。ニコチンパッチの使用などさまざまな禁煙法にすべて失敗し、絶対にたばこが手に入らない場所にわが身を置くことにした。「禁煙の最後のチャンス。しばらく家族に会えないのは寂しいが、たばこをやめ長生きすれば、それだけ一緒に過ごせる時間が長くなる」と話しているという。

(共同)2009/08/26 09:46

愛媛県今治 みかんの里 訪問記

流通担当理事 浦崎 則夫

ジェットコースターのような細くて狭い山道を 6 人乗りのボンゴ車が勢いよく駆け登ると、そこは足がすくむ様な崖の上。まだ残暑の強い陽射しとその急斜面を照らしている畑に、濃い緑色のみかんの木が、元気に並んでいました。そして、みかんの葉と葉の間には、かわいいピンポン玉ほどの実がたくさん顔を出していたのです。

私たちは毎年、この三皿園から冬みかんを 1,000 ケースほど共同購入して、はや 10 年以上にもなります。はるばる 2,000 キロ以上も離れた四国は愛媛県今治のみかんの里、こんなにも険しい地形と過酷な作業の中、EMをふんだんに使った有機栽培、しかも J A S 認定のみかんを丹精込めて作られ、ずーっと送り続けていただいて、いたのです。本当に頭が下がり、感謝の気持ちで一杯になりました。これからは、みかんを作っている人のことを思いながら一個、一個大切に味わっていきたいと思いました。

山道を運転し案内していただいた越智日出子さんが、このみかん畑で親子のイノシシと遭遇して危なかった話や、「みかんを収穫するときは、すごく楽しいよ。」と気さくに話され、本当に愛情込めてみかん作りをしている気持ちがどんどん伝わって来ました。又、三皿園が力を入れている加工品のなかで、みかんの皮で作った上品で美味しい高級チョコレートを試食させていただいたりして、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。



ミカンの見方を説明する越智日出子社長（左から 2 人目）・渡部憲二社長（左端）

お店で買うことが出来ない三皿園のみかん、安心して美味しい本物のみかんを、これからも安定して共同購入できるよう、会員の皆さんと一緒に取組んでいきたいとの思いをより強くしながら、三皿園を後にしました。

平成 21 年 9 月 3 日

愛媛みかんの里、(有)三皿園(視察報告)

理事・事務局長 大西秀男

9月3日、残暑も30度超の昼頃に松山空港に無事到着し、EM養鶏場（ブロイラー専門、84,000羽）経営中の渡部憲二社長（当協会の法人会員）に出迎え頂き、約1時間で、一路、三皿園（当協会の法人会員）に13時頃到着し、早速、越智家に赴き後藤理事長の代行として弔問し、越智章太郎前社長（本年6月58歳で帰幽）の御霊前に渡部社長、浦崎夫妻、大西が参拝させて頂き、後継の社長となられた奥様の日出子様と前社長のご両親様に謹んで哀悼のご挨拶の後、近くにある墓所にもご案内して頂き、心をこめて、ご冥福を祈らせて戴きました。

その後、越智日出子新社長の運転（山道用4WDボンゴ車）で、約6.4ヘクタールのEM栽培ミカン畑（有機JAS認定）が、30～50度の急勾配地に分散して栽培され、約1kmのデコボコ山道を約1時間視察し、何度か下車して育成状況を越智社長、渡部社長の説明をして戴き乍ら、今年の収穫予想としては、今後、大風・大雨がない限り、やや豊作との事で安心した思いでした。病虫害被害対



越智社長（前左端）と渡部社長（後右端）
近藤さん（前右端）

策についても渡部社長の指導により、良い対応をして収穫時に向けて、優秀な研修生3名を含む6～7名で、努力をすとの事、出荷物についても吟味し、価格についても前社長との約束どおりで、相互確認をさせて頂いた事に感謝致します。更に、みかんジャム・ジュース等の有機JAS加工品も手造りで、製造販売業務を一生懸命取り組んでおられる姿に感銘を一層深めた次第です。

又、“いよかん”については渡部農場社長の妹で、近藤多津子さんにも会い、EM栽培地を案内して頂き、すばらしい育成状況を見せて頂きました。

尚、渡部農場のブロイラーはヒナから55日間で出荷すとの事、養鶏ハウス12棟に一棟当たり、7,000羽を順次12サイクルで、EM養鶏若鶏ブロイラーとして出荷中との事で、当方でも、是非本物のブロイラーを食味出来る事を楽しみにしたいと思います。

此の度は大変ご多忙中、送迎等をして戴きました事に心より感謝致します。



今年のみかんは豊作の予感

危険なお茶にご用心

《大橋農園のお茶、愛飲の皆様へ》

日頃は、私共のお茶製品をご愛飲頂き誠にありがとうございます。
米とお茶は日本人にとっては切っても切れない食品です。現在のお茶は一番ごまかしのきく危険な食品となってしまいました。

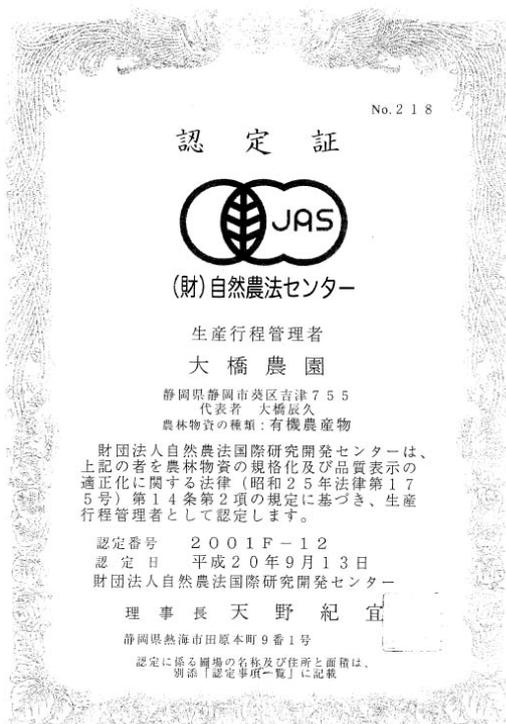
私共は50年前より安全で健康に良い食品を皆様に提供するために“自然農法”（お茶・米・みかん・野菜）等を研究し、実行してきました。

21世紀になって、《有機JASマーク》を貼った食品が店頭に出回るようになりまし

た。
私のお茶も栽培と荒茶加工は、《有機JAS認証》を受けております。再生加工（本茶・クキ茶・棒茶・芽茶・粉茶・番茶）等の仕分けは農家としては出来ず、専門業者
にお願いするしかありません。私が栽培したお茶の袋詰めは私がしますが、加工業者
の認証を受けていないため《有機JASマーク》を貼ることは出来ません。しかし、
全て《有機JAS認証》を受けたお茶で、安全・安心と味には自信を持っております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

大橋農園 代表者 大橋辰久



農産物生産履歴

平成21年7月07日

NPO法人北海道EM普及協会

生産者名	大橋辰久 印 電話 054-278-0625		
住所	〒421-2223 静岡県静岡市葵区吉津755		
生産品目	茶		
この栽培方法の開始年	昭和55年 月		
ランク	自然農法・有機JAS・EM使用無農薬・EM使用減農薬		
EM使用状況	EM使用	使用量	年間使用回数
EM活性液	有・無	反当500kg	4回
EMボカシ	有・無	反当100kg	8回
EM堆肥	有・無	反当 kg	回
その他(糞)	有・無	反当150kg	1回
化成肥料使用状況	化成肥料使用	使用量	年間使用回数
肥料名:	有・無	反当 kg	回
" :	有・無	反当 kg	回
農薬使用状況	農薬使用	使用量	年間使用回数
除草剤名:	有・無	反当 kg	回
殺虫剤名:	有・無	反当 kg	回
" :	有・無	反当 kg	回
殺菌剤名:	有・無	反当 kg	回
" :	有・無	反当 kg	回

2009 年度EMボカシネットワーク北海道支部 総会を終えて



左から勝俣事務局長、高井支部長、高橋議長

7月18日(土)13:30より協力関係にありますNPO法人北海道EM普及協会の2F会議室を利用させていただきEMボカシネットワーク北海道支部2009年度総会を開催させていただきました。EMボカシネットワーク北海道支部総会は今回が13回目にあたり、主に全道の障がい者が働く福祉事業所で構成されています。総会の参加人数は30名を超え、無事に2009年度の総会を終える事ができました。

残念ながら今回の総会にはEMボカシネットワーク名誉会長である比嘉節子氏が所用でお越し頂く事が出来ませんでした。が、(株)EM研究機構より、EMボカシネットワーク本部事務局も兼任されています瀬古和彦氏にお越し頂き、総会後の情報交換の時間に全国的なEMの利用に関するお話を聞かせていただきました。そのお話の中には他の支部よりも北海道支部は活発に活動しているというお話もありました。その他全国EM技術交流大会中部大会の報告、全道各地の報告などあり、少しずつですがEMについて全道でも広がっていると話を聞いて感じました。

また、19日(日)には、北海道EM普及協会の方々にも協力していただき、市民の方々を対象に札幌市厚別区の厚別区民センターにて公開講座を行いました。4名の方に講師をお願いし、約200名の市民の方にお越しいただきました。ご来場の方には作成した家庭でのEM利用の楽しみ方のDVDを配布させていただきました。これをきっかけにもっと多くの方にEMを知っていただき、普及していければと思います。

今回の総会、一般公開講座におきまして、ご支援・ご協力いただきましたNPO法人北海道EM普及協会、(財)自然農法国際研究開発センター北海道地区普及所並びに各関係者の皆様、お忙しい中ありがとうございました。この場をお借りしてお礼のご挨拶させていただきたいと思っております。

EMボカシネットワーク北海道支部総会
当番施設 NPO法人ひまわり会 代表 宮田英次

情報交換会

情報交換担当理事 阿部貞夫

情報交換会の一層の充実とEM仲間の体験談を有意義な交換の場となり、学びの場となる事を願い、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

10月10日(土)13:00~15:00 **収穫祭・野菜の試食会**

11月14日(土)13:00~15:00 **越冬野菜の保存方法**

12月12日(土)13:00~15:00 **外部講師を招いて勉強会**
講師 多田辰義先生

☆多田辰義先生のプロフィール

- 1、 生年月日 昭和12年10月25日(北海道)
- 2、 学歴 昭和34年03月23日 法政大学経済学科卒業
- 3、 資格免許 平成元年03月20日 農学博士(東京農業大学)
- 4、 主要な経歴

職歴：北海道職員

首席専門技術員(北海道庁)平成5年から4年間

アスパラガスの研究にて博士号取得

- 5、 現在

さとみらいプロジェクトグループ(さとらんど)

野菜栽培相談員

日本国際協力事業団(JICA)専門家